

2016年7月11日

京都大学環境安全保健機構健康管理部門／附属健康科学センター、リクルート他と Personal Health Record(PHR) 利活用促進についての産学連携共同研究を開始

国立大学法人京都大学環境安全保健機構健康管理部門/附属健康科学センター（部門長・教授：石見拓）は、株式会社リクルートホールディングス他、とデータに基づく健康管理の質の向上を目的として、大学生の健康管理を起点としたPHRの標準化および利活用促進についての産学連携共同研究を開始します。

1. 共同研究の背景

- わが国では、広く健康診断が普及していますが、その結果を活用した健康増進への取り組みは十分とは言えません。
- 健康・医療分野においても、ICT技術（クラウド/スマホ等）の急速な発展と普及によって、健康・医療ビッグデータを活用したさらなるイノベーションが期待されています。
- 中でも健康・医療・介護に関わる個人データ（Personal Health Record、以下「PHR」）を活用することができれば、データに基づく健康増進に繋がるとともに、時系列のデータ集積が進み、臨床研究など医学の発展にも寄与することができます。
- いまでも、数多くの医療情報連携ネットワークが存在しますが、情報の互換性、連続性、利便性が不十分であること、運営費用や利用率の低さなどの問題を抱え、十分普及が進んでいないのが現状です。

2. 共同研究の概要

共同研究の目的は、PHRの標準化、およびPHRサービスを活用したデータに基づく健康増進、医療の質向上を実現するための課題を抽出し、永続的運営が可能なビジネスモデルを考察することです。関係する企業4社と共同研究を行い、下記を検討していきます。

- 大学健診を起点とした、救急・災害時、プライマリケア受診時の連携等も踏まえた情報項目の標準化
 - 個人が生涯にわたって標準化された健康情報、ライフログを安全に利活用することができる基盤の整備
- さらに、株式会社リクルートホールディングスと共同で実証実験を行うとともに、京都市や健康長寿のまち・京都市民会議の協力も得て、PHRサービスを活用したライフスタイルの改善、健康寿命の延伸に繋げていくことを目指します。



3. 京都大学環境安全保健機構 健康管理部門／附属健康科学センター 概要

京都大学環境安全保健機構 健康管理部門／附属健康科学センター

健康診断などを通じて、京都大学の学生・教職員およそ3万人の健康管理を司るとともに、健康・医療に関わる教育、啓発、研究を行っています。

京都大学保健診療所は明治41年（1908年）に開設され、わが国における大学保健発祥の地でもあります。

また、当部門／センターに所属する教員の多くは、京都大学SPH(School of Public Health、公衆衛生大学院)の教員、卒業生であり、健康・医療情報を取り扱う専門家です。

研究代表者 石見 拓

京都大学環境安全保健機構健康管理部門／附属健康科学センター 教授・部門長
 経歴：群馬大学医学部卒業。大阪大学医学部医学研究科・生態統合医学（救急医学）博士課程修了。京都大学大学院医学研究科・臨床研究者養成コース修了。
 専門：循環器内科、蘇生科学、予防医療学、臨床疫学



【本件に関するお問い合わせ先】

国立大学法人京都大学 環境安全保健機構健康管理部門/附属健康科学センター 担当：中村 育子
 TEL：075-753-2426 E-MAIL：datahealth@hoken.kyoto-u.ac.jp